

日本子ども社会学会第12回大会

プログラム



2005年6月25・26日

大阪市立大学

大会日程

前 日	6月24日(金)	
	15:00-17:00	会計監査
	17:00-19:00	旧理事会
第1日	6月25日(土)	
	9:00	受 付
	9:10-9:20	開会式
	9:30-12:00	研究発表Ⅰ
	12:00-12:40	総 会
	12:40-13:25	昼 食 新理事会
	13:30-15:30	研究発表Ⅱ
	15:40-17:40	ワークショップ
	18:00-20:00	懇親会
第2日	6月26日(日)	
	9:00	受 付
	9:30-12:00	研究発表Ⅲ
	12:00-13:10	昼 食 評議会・各種委員会
	13:20-15:20	公開シンポジウム
	15:30-17:30	ラウンドテーブル

*研究発表等の開催場所は、5-6頁をご参照ください。



ご案内

1. 会場 大阪市立大学 杉本町キャンパス 全学共通教育棟
【連絡先】 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪市立大学生活科学部 人間福祉学科 山縣研究室気付
日本子ども社会学会第12回大会実行委員会
Tel 06-6605-2847または06-6605-2897
Fax 06-6605-2894
E-mail : yamagata@life.osaka-cu.ac.jp

*なお、大会期間中は大会本部（全学共通教育棟4階849教室）に大会実行委員会事務局員が待機しております。

【入会および会費納入等に関する相談・問い合わせは日本子ども社会学会事務局へ】

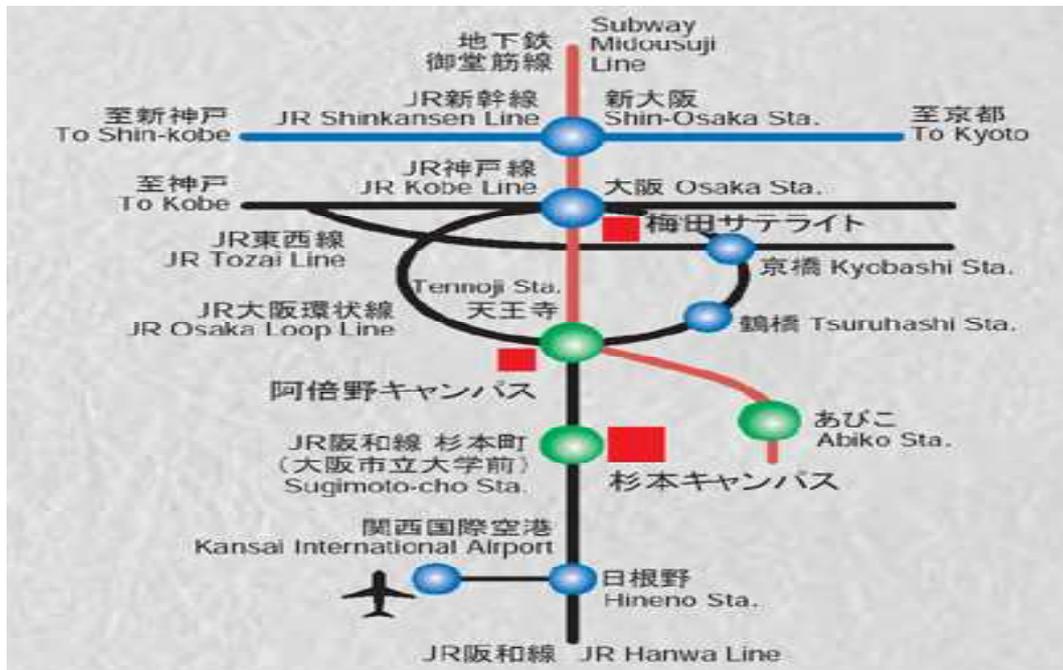
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学教育学部地域教育社会学研究室 気付
Tel& Fax 092-642-3125（院生研究室）
郵便振込口座 01760-1-85048
学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jscs2/>

2. 受付 会場4階エレベーター前にて行います。（会場案内図をご参照ください。）
3. 参加費 【大会参加費】 学会員3,500円 臨時（当日）会員3,000円
【懇親会費】 5,000円（大阪市立大学学術情報センター10階研究者交流室）
4. 研究発表 個人（1人）発表20分・質疑応答5分、共同（複数）発表40分・質疑応答10分とします。発表時間を厳守してください。なお、レジュメを用意される方は、60部以上ご用意ください。万一不足の場合、大会本部ではコピー等いたしかねますのでご了承ください。
5. 発表取消（欠席） 発表を取消（発表者が欠席する）の場合には、大会前日（6月24日）までに上記の大会実行委員会にお知らせください。
なお、発表取消については、学会ニュースにその旨を掲載します。
6. 当日配布資料 当日別途資料を配付される場合は、分科会名・氏名を明記し、各分科会の係まで発表当日、早めにご提出ください。
7. クローク 【場所】 4階848教室
【時間】 9:00-17:50
8. 会員休憩室 【場所】 4階847教室
【時間】 9:00-17:50



9. 宿 泊 会場はJR阪和線杉本町駅前です。杉本町の付近にはホテルはありません。JR天王寺駅（電車で15分弱）周辺のホテルが便利かと思えます。申し訳ございませんが、各自でご予約下さい。

《大会会場へのアクセス》



(大阪市立大学公式HP <http://www.osaka-cu.ac.jp/>)

1. 新大阪駅または大阪駅からのJRのみで来学されるルート (50~60分)

新大阪駅 → 大阪駅 → 天王寺駅 → 杉本町駅

JR東海道線 JR環状線 (内回または外回) JR阪和線(各駅停車)
2. 新大阪駅または大阪駅からの地下鉄で来学されるルート (40~50分)

新大阪駅または大阪駅 → 我孫子 (徒歩10分 タクシー5分)

地下鉄御堂筋線 (中百舌鳥行)
3. 大阪空港からのルート (大阪駅まで約40分)

大阪空港駅 → 蛍池駅 → 梅田駅 → 大阪駅

モノレール 阪急電車 徒歩5分
4. 関西空港より (約50分)

関西空港駅 → 杉本町駅

JR阪和線 (関空快速に乗り、鳳駅または堺市駅で各停に乗り換え)

《会場案内》



- | | | | |
|--------------------------|--------------------|---------------|--------|
| ① 1号館 | ② 商学部棟 | ③ 経済学部棟 | ④ 法学部棟 |
| ⑤ 文学部棟 | ⑥ 経済研究所棟 | ⑦ 都市問題資料センター | |
| ⑧ 田中記念館 | ⑨ 保健管理センター | ⑩ 河海工学実験場 | |
| ⑳ ₂ 第2学生ホール | ㉑ スポーツハウス | | |
| ⑪ 学術情報総合センター（懇親会会場） | ⑫ 理学部棟 | ⑬ 工学部棟 | |
| ⑭ 生活科学部棟（24日理事会・各種委員会会場） | | | |
| ⑮ 工作技術センター | ⑯ 児童・家族相談所 | | |
| ⑰ 2号館 | ⑲ 全学共通教育棟（研究発表等会場） | ⑳ 4号館 | |
| ㉑ 基礎教育実験棟 | ㉒ 第1体育館 | ㉓ 第2体育館 | |
| ㉔ ₁ 第1学生ホール | ㉕ ゲストハウス | ㉖ 新産業創生研究センター | |

- ・学内に駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。
- ・コピーは、⑭番の建物の前のコンビニでお願いします。
- ・周辺に食堂やレストランはあまりありません。
- ・両日とも、受付付近でお弁当を販売します。

《会場別スケジュール表》

研究発表表											
教室	6月25日(土)						6月26日(日)				
	9:10-9:20	9:30-12:00	12:00-12:40	12:40-13:25	13:30-15:30	15:40-17:40	18:00-20:00	9:30-12:00	12:00-13:10	13:20-15:20	15:30-17:30
		研究発表Ⅰ			研究発表Ⅱ			研究発表Ⅲ			
845		学童保育・地域研究			歴史研究			国際比較・海外研究			
844		高校生等研究			子どもの生活研究			父親・幼小交流研究			
843		子育て・子育て問題研究			教育・教育実践研究			子育て支援研究			
842					保育教育技法研究方法研究			遊び・遊び観研究			
総会・公開シンポジウム・ワークショップ・ラウンドテーブル・懇親見会											
教室	6月25日(土)						6月26日(日)				
	9:10-9:20	9:30-12:00	12:00-12:40	12:40-13:25	13:30-15:30	15:40-17:40	18:00-20:00	9:30-12:00	12:00-13:10	13:20-15:20	15:30-17:30
						ワークショップ				公開シンポ	ラウンドテーブル
83J								評議員会			紙芝居の過去・現在・未来
83H								紀要編集委員会			子守唄・わらべうたの伝承と普及に向けての取り組み
83G								研究交流委員会			子どものスポーツを巡る諸問題
83F								メディア活用委員会			教育／保育機関における子どもへの支援実践の日常的構成
83E								将来構想委員会			近代学校は集団と個の関係をどうとらえてきたか
83D								学会奨励賞選考委員会			子ども社会学研究の理論と実践性
83C								研究刊行委員会 共同研究事業プロジェクト委員会			学級での協同学習と子どもの学習力(学ぶ力)・個性
820	開会式		総会			子どもの放課後を考える					
821						大都市圏に暮らす子どもの生活状況					
810										子どもの生活世界に起こっている問題を考える	
学情センター								懇親会(10階)			
84A	理事控室		新理事会		理事控室						
848	クローク										
847	会員休憩室(昼食会場)										
849	大会本部・スタッフ控室										
846	書籍等販売会場										

研究発表 I

6月25日(土) 9:30-12:00

4階 845教室

学童保育・地域研究

司会 上杉 孝實 (龍谷大学)
中山 哲志 (東京成徳大学)

- 9:30-9:55 日本児童協会のペダゴジーと会員の社会的属性
早稲田大学大学院 高橋 均
- 9:55-10:20 学童保育の今後の可能性について
京都大学大学院 三好 正彦
- 10:20-11:10 学童保育指導員の生活と意識
—東京都A区の調査から—
○聖徳大学 木村 敬子
○聖徳大学 小杉 洋子
- 11:10— 総括討論

6月25日(土) 9:30-12:00

4階 844教室

高校生等研究

司会 樋田 大二郎 (聖心女子大学)
新井 真人 (秋田大学)

- 9:30-9:55 中学生の学級内での位置認識
—子どもの視点からみた集団形成から—
奈良女子大学大学院 池田 曜子
- 9:55-10:20 占いは、いらない？
—科学重視社会に生きる高校生の意識より—
上智大学大学院 浜島 幸司
- 10:20-10:45 ポスト学歴社会における学習意欲の研究
東京大学 堀 健志
- 10:45-11:10 生徒からみた通信制高校
—正統性に対する捉え方を中心にして—
○関西学院大学大学院 尾場 友和
関西学院大学 南本 長穂
- 11:10-11:35 進路多様校におけるフリーター産出過程の継時的研究(1)
中央大学 古賀 正義
- 11:35- 総括討論

6月25日(土) 9:30-12:00

4階 843教室

子育て・子育て問題研究

司会 松浦 勲 (九州工業大学)
流石 智子 (華頂短期大学)

- 9:30-10:20 子ども観に関する研究(Ⅱ)
- | | |
|-----------|--------|
| 放送大学 | 住田 正樹 |
| ○福岡女子短期大学 | 横山 卓 |
| 香蘭女子短期大学 | 溝田 めぐみ |
| ○尚絅短期大学 | 中村 真弓 |
| ○九州大学大学院 | 清水 一巳 |
- 10:20-10:45 コンピュータ・コーディングによる子育て問題の分析
- | | |
|--------|-------|
| 桜花学園大学 | 渡部 晃正 |
|--------|-------|
- 10:45-11:10 出来事世界の重層的生成過程における子どもの行為の
“質”の記述可能性
- | | |
|--------|-------|
| 上越教育大学 | 松本 健義 |
|--------|-------|
- 11:10-11:35 母親の育児不安の要因に関する考察
- | | |
|-------------|-------|
| ○埼玉県立松山高等学校 | 三枝 恵子 |
| 松蔭大学 | 深谷 野亜 |
| 東京成徳短期大学 | 馬場 康宏 |
| 東京家政大学大学院 | 朴 珠鉉 |
| 東京成徳大学 | 深谷 昌志 |
- 11:35- 総括討論

研究発表Ⅱ

6月25日（土）13：30－15：30

4階 845教室

歴史研究

司会 上 笙一郎
加藤 理 （東京成徳大学）

- 13:30－13:55 ラジオの‘子ども’と音楽
－昭和初期のラジオ番組『子供の時間』にみる音楽に関する一考察－
中部大学非常勤講師 葉口 英子
- 13:55－14:20 戦中印刷紙芝居と戦争協力のカタチ
立命館大学非常勤講師 鈴木 常勝
- 14:20－14:45 日本の植民地時代における朝鮮幼稚園児が歌っていた歌の
共通性と特異性について
－ブラウンソー遊戯唱歌集の歌詞分析を中心に－
日本女子大学大学院 裊 珉卿
- 14:45－15:10 所謂「学校劇禁止令」（1924）の意味および影響について
愛知教育大学非常勤講師 南 元子
- 15:10－ 総括討論

6月25日(土) 13:30-15:30

4階 844教室

子どもの生活研究

司会 米谷 光弘 (西南学院大学)
山野 則子 (梅花女子大学)

- 13:30-13:55 子どもの脱自己中心的傾向と日常生活
筑波大学大学院 遠藤 宏美
- 13:55-14:20 子どもの「安全」をめぐる学校と地域
北九州市立大学 児玉 弥生
- 14:20-15:10 放課後の子どもたちⅠ・Ⅱ
ー北海道から沖縄まで16地点での冬と秋の放課後の子どもの暮らしー
- | | | |
|-------------------|-------------|-------|
| 研究の経緯と子どものライフスタイル | ○中国短期大学 | 高旗 正人 |
| 子どもの遊びと環境 | ○北海道教育大学 | 須田 康之 |
| 地域差と学校差の分析 | ○世田谷区立給田小学校 | 土橋 稔 |
| 友人・携帯・メールの世界 | ○琉球大学 | 西本 裕輝 |
| 子どもの自己像と心理的環境 | ○東京成徳大学 | 深谷 和子 |
-
- | | |
|------------------|----------------------|
| 片岡 徳雄 (広島大学名誉教授) | 住田 正樹 (放送大学) |
| 深谷 昌志 (東京成徳大学) | 太田 佳光 (愛媛大学) |
| 永井 聖二 (東京成徳大学) | 山縣 文治 (大阪市立大学) |
| 雪江 美久 (東北福祉大学) | 稲葉 和子 (富山県福岡町立福岡小学校) |
| 秦 政春 (大阪大学) | 上島 博 (御所市立葛城南小学校) |
| 三枝 恵子 (埼玉県立松山高校) | 山本 武夫 (元仙台市立黒松児童館) |
- 15:10- 総括討論

6月25日（土）13：30－15：30

4階 843教室

教育・教育実践研究

司会 田中 亨胤（兵庫教育大学）
太田 佳光（愛媛大学）

- 13:30－13:55 集団保育場面における保育者のまなざし 1
－ “集団を捉えること” に対する現場での現状－
聖徳大学大学院 菊池 里映
- 13:55－14:20 小学校入学1年間における子どもの教室文化の形成過程
－モデル化作用を中心に－
○奈良女子大学大学院 守山 紗弥加
奈良女子大学 本山 方子
- 14:20－14:45 教育における協同の理論的研究
島根大学 高旗 浩志
- 14:45－15:10 道徳教育におけるサービス・ラーニングの実践研究
鳴門教育大学 伴 恒信
- 15:10－ 総括討論

6月25日（土）13：30－15：30

4階 842教室

保育教育技法・研究方法研究

司会 熊澤 幸子（昭和女子大学）
川勝 泰介（京都女子大学）

- 13:30－13:55 直接体験と電子メディア体験における違い
－雰囲気を感じる体験に注目して－
東京大学大学院 村上 博文
- 13:55－14:20 自己を子どもと交わり子どもを観る手だてとすること
－子どもの文化的アイデンティティ形成と創造のために－
上智大学大学院 真鍋 眞澄
- 14:20－14:45 山形県金山町私立めばえ幼稚園の子どもたちの環境認識について
－保育園児と比較して－
日本女子大学大学院 浅野 由子
- 14:45－15:10 絵本の読み語り方と子どもの眼球運動
－アイカメラによる分析－
比治山大学短期大学部 湯地 宏樹
- 15:10－ 総括討論

ワークショップ

6月25日（土）15：40－17：40
2階 820教室

◆ワークショップ1

子どもの放課後を考える —学会調査をふまえて—

コーディネーター 住田 正樹（放送大学）

パネリスト

学校現場から 上島 博（御所市葛城南小学校）

地域論の視点から 岡崎 友典（放送大学）

子どもの成長から 永井 聖二（東京成徳大学）

子ども社会学会では、先導的な試行を含めて、2年次にわたって、子どもの放課後についての全国調査を実施してきた。そして、①家庭学習の時間が短い、②テレビ視聴の時間が長い、③友だちとの外遊びが少ない、④家にこもっている子どもが多い、⑤子どもの暮らしに地域差が見られるなどを指摘してきた。

本ワークショップでは、自由研究での発表成果をふまえて、子どもの放課後をどう考えたらよいかを、それぞれの視点から問題提起をしてもらい、話し合いたいと思っている。

6月25日(土) 15:40-17:40

2階 821教室

◆ワークショップ2

大都市圏に暮らす子どもの生活状況 — 家庭生活と地域生活を中心に —

司会・コーディネーター	堀 智晴 (大阪市立大学)
話題提供者	中井 孝章 (大阪市立大学)
食と生活	山本 由喜子 (大阪市立大学)
家庭と生活1	畠中 宗一 (大阪市立大学)
家庭と生活2	木村 直子 (大阪市立大学大学院)
放課後と生活	小伊藤 亜希子 (大阪市立大学)
指定討論者	小川 博久 (聖徳大学)

あらゆる生活行為が地域固有の制約性から自由になることにより、そこに暮らす人々の生活様式を多様化・個別化する「都市化」の時代は円熟期を迎え、わが国は名実ともに都市社会となった。とりわけ、大阪市など人口集積地域が拡大する大都市圏では、近代都市的な個人主義が人々の生活様式として定着してきた。そこで育つ子どもたちもまた、大人と同様の都市型生活様式を享受している。子どもたちにとって都市社会がもたらす恩恵が大である一方で、様々な生活場面で彼らの成長発達を妨げる諸問題が頻発し、山積していると推測される。とりわけ、大都市圏において、子どもの生活諸問題は、少子化ということでその改善策が立てられなかったり、後回しにされたりする傾向がある。それだけに、それは、重要な課題であると考えられる。具体的に言うと、まず家庭生活面では、1)食生活問題(発育・健康状況、栄養摂取状況/誰と何をどのように食べているかなどの食事状況[孤食・個食]/食物アレルギーの実態等)、2)家族関係の問題(特に、食卓と家族関係)が挙げられる。地域生活面では、3)放課後の生活行動や遊びのあり方(遊びの時間・空間・仲間・方法)、4)(学校完全五日制実施以降の)土・日曜日の過ごし方(遊びや塾・習いごと通いの状況)が挙げられる。

以上、本ワークショップでは、家庭生活面と地域生活面における大都市圏の子どもの生活問題およびその改善のあり方について、2003年から約2年間行ってきた調査およびその分析結果を通して提示していきたい。なお、主なデータとしては、大都市圏(大阪・東京)の小学校4~6年生(約3000名)から得た「子どもの生活時間調査および生活調査」(1)~(4)の結果を手がかりとする。

研究発表Ⅲ

6月26日（日）9：30－12：00

4階 845教室

国際比較・海外研究

司会 山田 富秋（松山大学）
滝 充（国立教育政策研究所）

- 9：30－9：55 子どもの自己表現・主張行動、主体性と将来の夢に関する日韓比較
名古屋大学大学院 金 慶美
- 9：55－10：20 関係性に見る「子ども」の認識
－バングラデシュ農村社会を事例にして－
総合研究大学院大学 南出 和余
- 10：20－10：45 日本国外における日本に関する教育
－国際結婚家庭の調査から－
奈良教育大学 渋谷 真樹
- 10：45－11：10 現代中国における子ども部屋の成立
－大連市商品住宅調査から－
九州大学 坂元 一光
- 11：10－ 総括討論

6月26日(日) 9:30-12:00

4階 844教室

父親・幼小交流研究

司会 多賀 太 (久留米大学)
野垣 義行 (鎌倉女子大学)

- 9:30-10:20 互惠性を中心とした幼小交流
—幼稚園4歳児と小学2年生を対象として—
○明石市立和坂小学校 淀澤 勝治
○兵庫教育大学附属幼稚園 岸本 美保子
- 10:20-10:45 父親の職業と育児参加
九州大学大学院 山瀬 範子
- 10:45-11:10 父親の育児関与の構造に関する考察
○松蔭大学 深谷 野亜
埼玉県立松山高校 三枝 恵子
東京成徳短期大学 馬場 康広
東京成徳大学 深谷 昌志
- 11:10-11:35 ジェンダーフリー時代における父子関係
—継続的記録からの一考察—
郡山女子大学附属幼稚園 賀門 康博
- 11:35— 総括討論

6月26日（日） 9：30－12：00

4階 843教室

子育て支援研究

司会 村上 尚三郎（第一福祉大学）

桜井 智恵子（大谷女子大学）

- 9：30－9：55 地域子育て支援センターの役割について
－状況の多重性の中での「居場所」の創出の場として（2）－
日本女子大学大学院 松永 愛子
- 9：55－10：20 子育てサークルと学校教育の連携における「福祉的視点」の可能性
－「こころの子育てネットにしよどがわ」における実践から－
大阪成蹊短期大学 寺田 恭子
- 10：20－10：45 乳幼児をもつ親の子育て実態調査報告
－子育てサークル参加の有無と子育て状況の関係を中心に－
○聖和大学 橋本 真紀
梅花女子大学 山野 則子
- 10：45－11：35 地域における子育て支援ネットワークの構築
－リソースとサービスの視点から－
○筑波大学 飯田 浩之
○筑波大学大学院 渡辺 恵
筑波大学大学院 遠藤 宏美
- 11：35－ 総括討論

6月26日（日） 9：30－12：00

4階 842教室

遊び・遊び観研究

司会 有村 久春（昭和女子大学）
高島 秀樹（明星大学）

- 9：30－9：55 「人びとの方法」に着目した子ども研究の分析視角
－いかにして子どもの「異文化性」に接近するか－
立教大学大学院 高橋 靖幸
- 9：55－10：20 小・中学生に見る男女の社会的・内的＜元気さ＞の検証
－女の子は果たして元気だろうか－
○山村学園短期大学 斉藤 浩子
東京成徳大学 深谷 和子
- 10：20－10：45 乳幼児の遊びをどう見るか
－保育者の「身体的関与」の分析を通して－
東横学園女子短期大学 根津 明子
- 10：45－11：10 多文化保育環境に関する理論的考察
埼玉学園大学 萩原 元昭
- 11：10－11：35 戦後の子どもの遊び論の特色と問題点
－子どもの遊び論の観念性とその要因をめぐって－
聖徳大学 小川 博久
- 11：35－ 総括討論

公開シンポジウム

6月26日（日）13：20－15：20

1階 810教室

子どもの生活世界に起こっている諸問題を考える －児童虐待・少年事件・家事事件－

司 会 山縣 文治（大阪市立大学）

児童相談所からみた子どもと家庭・地域

津崎 哲郎（花園大学）

家庭裁判所からみた子どもと家庭・地域

廣井 亮一（和歌山大学）

弁護士からみた子どもと家庭・地域

岩佐 嘉彦（弁護士）

子どもたちの健やかな成長は誰もが期待するところである。しかしながら、今日の社会をみていると、虐待を受けている子ども、子どもたちが被害者としても加害者としても登場する少年事件、家族や学校を含む社会との関係がうまくいかず閉じこもったり、反社会的な行動を起こす子どもたちなど、それなりの環境で育っているとはいいがたい状況も多々みられる。

家庭、地域社会、学校などで、翻弄される子どもたち。日本子ども社会学会は、子どもの生活世界にかかわる研究や実践をおこなう科学者集団である。学会としても、このような状況を等閑視しているだけではいけない。それぞれの研究や実践手法のなかで、求められるあるいは可能なかわりがあるはずである。

本シンポジウムでは、子どもの生活世界で発生している諸問題、とりわけ社会的な関心事にまで高まっている子どもの虐待や少年事件などの最前線で仕事を続けてこられた方々に登場していただく。今現場で何が起こっているのか、それに対して、家庭、学校、地域社会などは何をすべきなのか、子ども自身はどう対処することができるのかなどに関する率直な意見をうかがい、子どもたちが生活している世界に少しでも近づいていきたい。また、それを通じて、生活世界の分析、個別的援助の実践、社会システムの変革などの手掛かりをえたい。

ラウンドテーブル

6月26日（日）15：30－17：30

3階 83J教室

◆ラウンドテーブル1

紙芝居の過去・現在・未来

コーディネーター 堀田 穰（京都学園大学）

街頭紙芝居が1930年に成立、その後すぐ1933年ごろには教育紙芝居が出来てくる。しかしこのユニークな子ども文化にとって不幸だったのは、成立してまもなく、日本が戦争体制に入っていく中に、すべてが組み込まれていったことだった。この時制作された戦争協力紙芝居は否定的な評価しかされず、これまでまともな検討をされたことがない。

戦後の子ども文化は、例えば口演童話をストーリーテリングと言い換えることで、この文化総体の戦争協力を否定しようとした。その心情は理解できないわけではないが、紙芝居については街頭紙芝居と教育紙芝居の対立を固定したまま、解消しようとしなかった。外側から見れば同じ紙芝居であり、文化の発展は継承を前提にしていることを考えれば、このようなあり方は異常事態であり、紙芝居総体を衰退させることでしかなかったのではないだろうか。ユニークな子どものための文化である紙芝居は、このまま衰退にまかせてよいのだろうか。

しかしようやく戦後50年を経て「手づくり紙芝居」運動として、街頭紙芝居と教育紙芝居の双方の良さを取り入れて紙芝居の未来を拓こうという試みがおこなわれている。

この手づくり紙芝居運動の大きな拠点のある大阪で、実際に街頭紙芝居、教育紙芝居、戦争協力紙芝居、手づくり紙芝居など各種の紙芝居の実演を見て、紙芝居の過去・現在・未来を語りあいたい。

6月26日（日）15：30－17：30

3階 83H教室

◆ラウンドテーブル2

子守唄・わらべうたの伝承と普及に向けての取り組み

コーディネーター 鵜野 祐介（梅花女子大学）

話題提供者 山本 淳子（「わらべうたの会もも」主宰）
和歌山県岩出町「根来の子守唄」保存会

子守唄やわらべうたは、子どもが生まれて最初に享受する「文化」のひとつであり、かつては親と子（家族）、子ども社会、地域社会など、さまざまな人間関係における「心の絆」として機能していた。ところが第2次大戦後、特に1960年代の高度経済成長以降の急激な社会変動は、いわゆる伝承の子守唄やわらべうたの継承を困難なものにした。そして21世紀初頭の今日、家族、子ども社会、地域社会それぞれにおいて、「心の絆」をうまく取り結ぶことができないが故の、子どもをめぐる痛ましい事件が後を絶たない。子守唄やわらべうたの意義が問い直されるべき時代を迎えていると言えるだろう。

ところで、子守唄やわらべうたをめぐるわが国の状況は近年、少しずつではあるが好転の兆しが見られる。一般家庭向けの図書（絵本）やCDが相次いで発売され、NHK教育（「にほんごであそぼ」「からだであそぼ」などの番組）や民放の地方局でも、子守唄やわらべうたが紹介されるようになった。また保育や教育の現場でも、これらを積極的に取り入れた実践が見られる。一方、子守唄による親子の絆の再構築と地域おこしを目指して1987年、岡山県井原市で始まった「全国子守唄サミット」は今年で18年目となる。さらに、1999年創設の「NPO法人 日本子守唄協会」の活動も新たな展開を見せている。

こうしたさまざまな動きに対して、本来これを主導・推進すべきアカデミズムの世界は、十分にその役割を果たしてきたとは言えない。そこで、遅ればせながらではあるが、「教育」や「子ども文化」「子ども社会」の専門家およびこれらに関心を持つ人びとが集う本学会のラウンドテーブルにおいて、子守唄やわらべうたの伝承と普及に向けてさまざまな立場で活動을続けてこられた方々に実践報告をしていただき、それを踏まえて今日的課題や今後の展望を語り合う場を持つことを企画した。多くの方々のご参集を期待している。

6月26日（日）15：30－17：30

3階 83G教室

◆ラウンドテーブル3

子どものスポーツを巡る諸問題 ―現状と課題―

コーディネーター	山本 清洋	(鹿児島大学)
話題提供者	犬飼 義秀	(岡山県立短大)
	大野木 龍太郎	(浜松学院大)
	清水 一巳	(九州大学)
司 会	馬場 桂一郎	(大阪信愛女学院)

今日の子どものスポーツは、遊び仲間での未組織なスポーツからスポーツ少年団やJリーグ下部組織のサッカークラブなどの組織的スポーツまで多様な姿を見せている。最近の調査によれば、小学4年生以上の約50%が学校外のスポーツへ参与している。このような参与現象が子どもの生活や文化、あるいはスポーツ文化の形成などに大きな影響をあたえていることは明白である。

一方、子どもスポーツに関する研究は、北米では1970年代から、日本ではやや遅れた時期から、盛んになってきている。隆盛を極める子どもスポーツ現象に関する研究の結果は、競技力向上の路線から子どもスポーツ早期教育を肯定する論理と子どもの存在や子ども文化の視点から現状を否定的に捉える論理に分かれている。しかし、いくつかの批判がなされるスポーツへ子ども達が参加し続ける理由に言及している研究は多くない。

本ラウンドテーブルは、3ヵ年間の計画で子どもスポーツへ取り組む予定であり、今回はその1回目ということになる。従って、今回は、現段階で把握できている子どものスポーツに関連する資料をもとに、子どもスポーツの現状を語り合い、子どもスポーツの何を、どのような方法で把握できるのかを、多様な研究領域から論じ合いたい。

「子どものスポーツは子どもの文化である」とはどういうことなのか。「無批判的にスポーツの高度化路線に子どもを乗せる」ことは、「子どもの存在」にとりどのような意味を持つのか、「子どものスポーツ文化を保証する」ということはどのようなことなのか、「子どもの発達とスポーツの関係」は如何なるものか？ 子どもスポーツを取り巻く大人のスポーツ組織や社会価値はどのような現状にあるのか？ このような課題を持つ子どもスポーツは日本での歴史的な経緯は如何なるものか？ また、子どもの生活に大きな比重を占めるスポーツが、心理学や教育学、教育社会学、子ども社会学等の分野で論議を呼ばないのは何故なのか。

平たく言えば、このようなことについて、子どもに関心のある多様な領域の思いや意見が交錯するなかに、豊かに子どもスポーツの世界を覗いてみたい。

6月26日（日）15：30－17：30

3階 83F教室

◆ラウンドテーブル4

教育／保育機関における子どもへの支援実践の日常的構成

コーディネーター	本山 方子（奈良女子大学）
話題提供者	野坂 祐子（大阪教育大学）
	古賀 松香（四国学院大学）
	掘越 紀香（大分大学）

学校や園などの教育機関では、本来、学習や遊びを通した子どもの発達を目的に教育実践が行われている。しかし、近年、学習や遊びの活動展開に向けた支援だけでなく、子どもが通学／通園することや、学校や園に居あわせること自体に対して、支援を要する状況がうまれている。つまり、教育機関においては、子どもへの日常的支援は、活動展開支援と参加定着支援との重層性を帯びており、さらにそれらの支援実践においては子どもの生活文脈に即することが求められる。

そこで、本ラウンドでは、重層化される日常的支援実践は学校や園でどのように構成されるのか、実践者は支援の重層性をどのように使い分け、切り替え、あるいは統合するのか、という問いに焦点を当てる。その上で、学校や園の制度的側面と、子どもの生活文脈との相互関係に着目し、教育機関における日常的支援実践の可能性について議論する。

話題提供者は、それぞれ学校、養護学校園、幼稚園と異なる機関で子どもや教師の支援を試みており、具体的支援のあり方も異なる。実際の支援における問題の見だし方や対象者との関係のとり方、支援者の役割に関する自己規定、現場での位置どりなどを含めて、上記問いに対する話題提供をいただく予定である。そして、支援実践の構成上起こりうる学校や園という場の制約と可能性の議論を通して、教育機関において可能な子どもの育ちについて考えてみたい。

6月26日（日）15：30－17：30

3階 83E教室

◆ラウンドテーブル5

近代学校は集団と個の関係をどうとらえてきたか —逸脱児をめぐるある教師の実践をめぐる—

企画・司会	小川 博久	（聖徳大学）
話題提供者	木村 学	（東京学芸大学連合大学院）
	杉山 哲司	（日本女子大学）
	本庄 富美子	（姫路市立荒川小学校）
	岩田 遵子	（東横学園女子短期大学）
	神田 伸生	（鶴見大学短期大学部）
指定討論者	中井 孝章	（大阪市立大学）

「問題行動のある子ども」という評価を与えられた子どもに対するある教師の取り組みを通して、学校における個と集団のあり方を考えたい。H教師は「問題児」とかかわる中で自らのまなざしや構えを省察し、自らの構えやまなざしへの根本的な変革を遂行する。その結果、「問題児」の行動が「問題児」性を解消させていく。我々は、この実践を追及する中で、クラスとは何か、クラスの中で一人ひとりは何を体験しているか、そこでの教師の姿勢はどうあるべきか、他の学校の同学年の学級集団の様態との比較を通して考える。

6月26日（日）15：30－17：30

3階 83D教室

◆ラウンドテーブル6

子ども社会学研究の理論と実践性

コーディネーター	原田 彰（呉大学）
	望月 重信（明治学院大学）
話題提供者	原田 彰（呉大学）
	望月 重信（明治学院大学）

子ども社会学研究の可能性について追究する。

子ども研究の対象である「子ども性」を整理し、これからの子ども研究のありかたを提示するとともに、教育実践のための方向性をともに模索したい。

「子ども研究は何のために？」という問いは、研究のエートスを問うと同時に、教育の実践的課題へと導かれる。参加される会員の皆さんと「研究と生産点」との関連性を話し合っていきたい。

6月26日（日）15：30－17：30

3階 83C教室

◆ラウンドテーブル7

学級での協同学習と子どもの学習力（学ぶ力）・個性

コーディネーター 高旗 正人（中国短期大学）
南本 長穂（関西学院大学）

いま、協同学習の方法論を見直す動きが活発になっています。その背景には、次の4つの要因があると考えられます。

第1には、学力向上フロンティア事業に代表される習熟度別学級編成、少人数教育など、「学習の個別化」による授業改善が、当初期待されたほどの効果を十分に上げ得ないでいること。

第2には、いわゆる教育臨床的諸課題について、「心のケア」を中心とする個別対応の制度化が進む一方で、子どもたちの「横のつながり」や「かかわりあう力」を育むための方法論へのニーズが高まりをみせていること。

第3には、人権・同和教育、特別支援教育、マイノリティ教育等の領域を教育実践の中核に位置づけ、より豊かな人間関係を築く学校教育の新たな形が求められていること。

第4には、上記の3点を踏まえた教員の指導力向上が、これまでも増して求められていることです。

もとより「協同学習」という方法論は目新しいものではなく、戦後から今日に至る日本の学習指導論を語るうえで欠くことのできない概念です。このラウンドテーブルでは日本の協同学習の歩みをふりかえるとともに、今日の教育実践に求められる「協同学習の新たな形」について議論を深めたいと考えています。

話題提供者として、実践研究と理論研究の発表者として5名を考えている。

- ・日本の協同学習の歩みと今日の課題 一個集研を事例として一
- ・学力づくりと協同学習
- ・学級経営と協同学習
- ・教科学習と協同学習
- ・今、求められている協同学習を進める教師の指導力

日本子ども社会学会第12回大会運営組織

実行委員会

山縣 文治 (委員長：大阪市立大学)	堀 智晴 (副委員長：大阪市立大学)
桜井智恵子 (大谷女子大学)	橋本 真紀 (聖和大学)
寺田 恭子 (大阪成蹊短期大学)	山野 則子 (梅花女子大学)

大会事務局

岩間 伸之 (事務局長)	
鵜浦 直子	崔 珍姫
辻 宣江	長江 史憲
中原 康博	橋永 典子



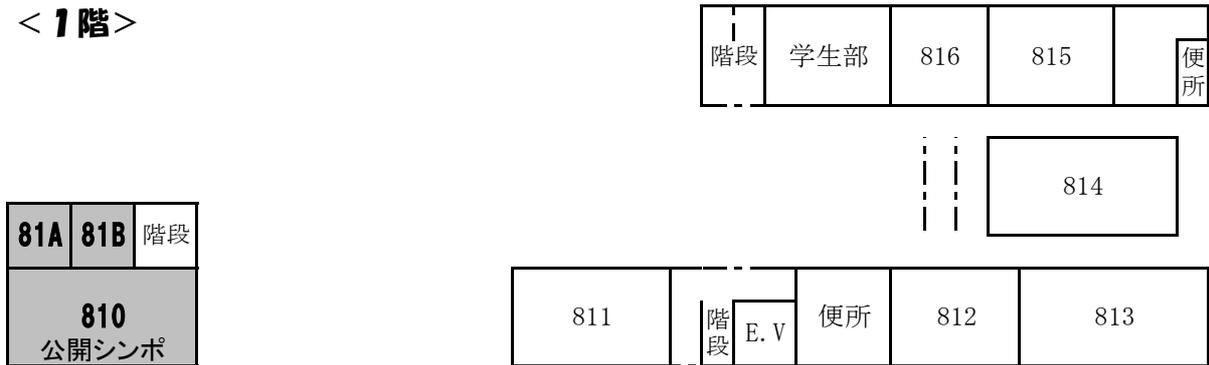
日本子ども社会学会第12回大会 プログラム

発行 2005年5月
発行者 日本子ども社会学会第12回大会実行委員会

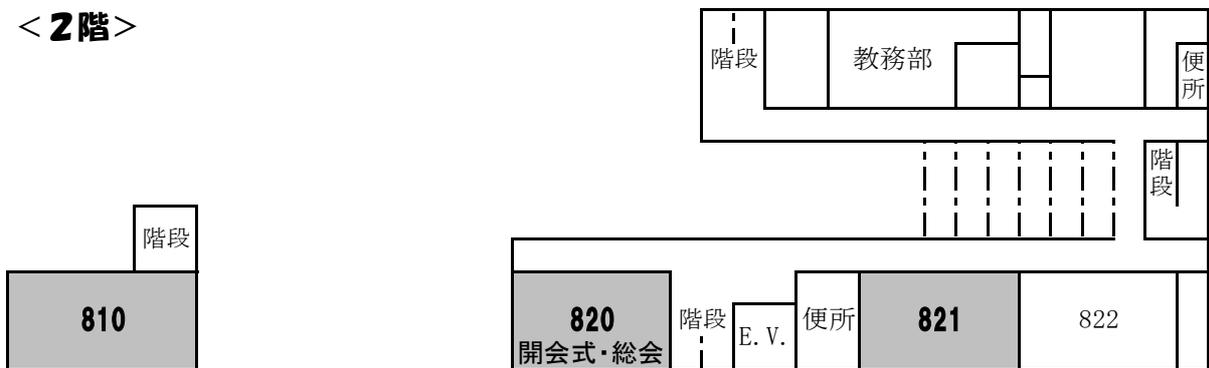
連絡先 大阪市住吉区杉本3-3-138 (〒558-8585)
大阪市立大学生活科学部 人間福祉学科 山縣研究室気付
Tel 06-6605-2847 Fax 06-6605-2894
E-mail yamagata@life.osaka-cu.ac.jp

《発表会場：全学共通教育棟内教室等配置図》

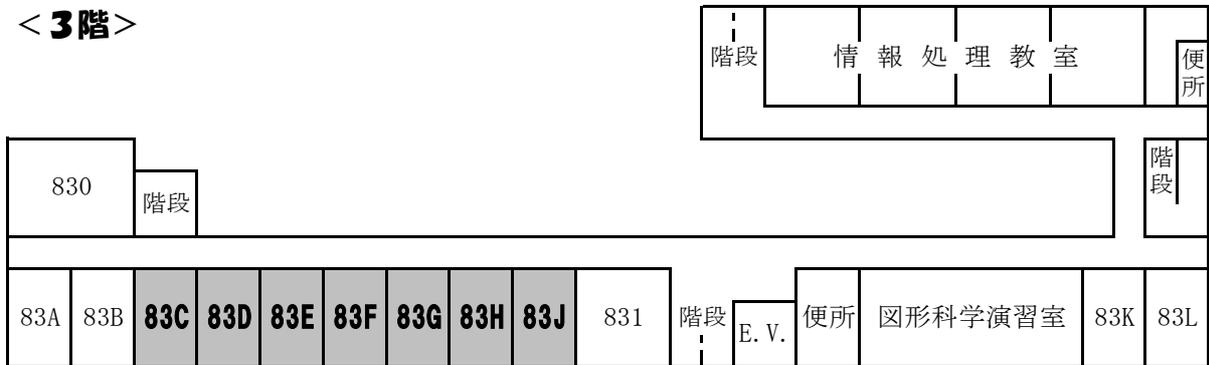
< 1階 >



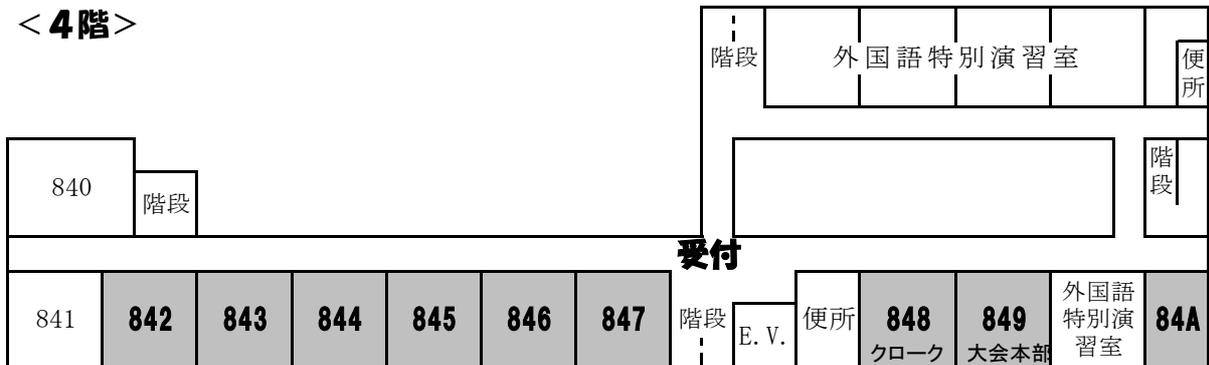
< 2階 >



< 3階 >



< 4階 >



(網掛け部分が大会で使用する教室)

大会事務局からのご案内

プログラムに関連する修正

6月25日(土)午後の「研究発表」および6月26日(日)午後の「ラウンドテーブル」の一部プログラムが、事前に送付させていただいた内容と異なっています。本抄録集では、正しく記載されています。会員の皆様にはご迷惑をおかけします。

1) 研究発表部会の増設に伴うプログラムの修正

【修正前】

4階 844教室	
子どもの生活研究	
司会 米谷 光弘(西南学院大学)	
山野 則子(梅花女子大学)	
13:30 - 13:55	子どもの脱自己中心的傾向と日常生活 筑波大学大学院 遠藤 宏美
13:55 - 14:20	子どもの「安全」をめぐる学校と地域 北九州市立大学 児玉 弥生
14:20 - 15:10	放課後の子どもたち ・ - 北海道から沖縄まで16地点での冬と秋の放課後の子どもの暮らし - 中国短期大学 高旗 正人 北海道教育大学 須田 康之 世田谷区立給田小学校 土橋 稔 琉球大学 西本 裕輝 東京成徳大学 深谷 和子 他
15:10 -	総括討論

【修正後】

4階 844教室	
子どもの生活研究	
司会 堀 智晴(大阪市立大学)	
寺田 恭子(大阪成蹊短期大学)	
13:30 - 13:55	子どもの脱自己中心的傾向と日常生活 筑波大学大学院 遠藤 宏美
13:55 - 14:20	子どもの「安全」をめぐる学校と地域 北九州市立大学 児玉 弥生
14:20 -	総括討論

4階 841教室	
子どもの放課後研究	
司会 米谷 光弘(西南学院大学)	
山野 則子(梅花女子大学)	
13:30 - 14:20	放課後の子どもたち 中国短期大学 高旗 正人 琉球大学 西本 裕輝 北海道教育大学 須田 康之
14:20 - 15:10	放課後の子どもたち 東京成徳大学 深谷 和子 世田谷区立給田小学校 土橋 稔 他

2) 発表会場の変更

ラウンドテーブルの会場が、下記のように変更になっています。ご注意ください。

教育 / 保育機関における子どもへの支援実践の日常的構成

：コーディネーター 本山 方子

3階 83F 教室

3階 83E 教室

近代学校は集団と個の関係をどうとらえてきたか：企画・司会 小川 博久

3階 83E 教室

3階 83F 教室

3) 発表の取消

研究発表 「父親・幼小交流研究」

賀門 康博：ジェンダーフリー時代における父子関係

* 発表取り消しによる発表繰り上げは通常は行いませんが、取り消し者が部会の最終報告者であるため、この部会においては総括討論を11時10分から行います。

事務連絡

1) 会員休憩室の追加

会員休憩室を2階にも一室設置しました。中庭からの階段を上った正面の部屋です。ご自由にお使いください。

2) 喫煙コーナー

本学は、トイレ等も含め建物内が全面禁煙です。ご注意ください。喫煙は、2階の会員休憩室の横に設置してある喫煙コーナーまたは、1階建物外でお願いします。

3) 昼食弁当の販売

両日とも11時半前後から1時間程度昼食用の弁当を販売します。お茶込みで500円です。販売数に限りがありますので、必要な方は、お早めをお願いします。

(種類は1種類ですが、初日と2日目の内容は変わります)